2026年度第1回学校関係者評価委員会　議事録

1）日　時：2026年 10 月 28 日（水）　14 時 00 分～15 時 00 分

2）場　所：YIC ビューティモード専門学校　本館 5 階 502 教室

3）目　的：2026 年度（令和 8 年度）の取り組みの中間報告と、前期活動を踏まえた職業実践専門課程の認定基準を中心とした点検および課題の報告、委員との意見交換

4）出席者：

保護者代表	河本　美香　様	美容学科1年　在校生　保護者
企業関係者	山村　朋之	株式会社ライブス　代表取締役　社長
職能団体	佐竹　章宏	山口県美容業生活同業組合　理事長
企業関係者	保多盛　栄	スタート美容室　代表
高校関係者	縄田　典行	学校法人山口高川学園　高川学園高等学校　就職指導部長
校　長	河津　道正	
副校長	千村　希人	
事務長	三船　龍	
教務課長	大宮　友美子	
教務係長	蔦濱　友子	

欠席者／学校関係者評価委員　卒業生代表　柴田　こず恵　様　（美容学科第 1 期卒業生）

【議事内容】

1. 議長選出　山村朋之様に依頼

2. 校長あいさつ

・学校関係者評価委員会は、学内での自己点検評価結果を委員の皆様にご覧いただき、最終的なご判断・ご評価をいただくとともに、この半年の各種学習成果を報告する場である。

・本日も業務多忙の中ご出席いただいた委員の皆様への感謝を述べるとともに、忌憚のないご意見とご指導をお願いしたい。

3. 議題 (1)2026 年度(令和 8 年度)取り組みの中間報告／報告者:千村副校長

● 議題 1: 全活動実績の中間報告(前期 9 月 30 日現在)

o 前期授業単位数

・1 年:年間予定 34 単位に対し、現在 13 単位を終了(計画通り)。

・2 年:年間予定 33 単位に対し、現在 12 単位を終了(計画通り)。

o 企業連携授業

カットクリエイティブ演習、トータルビューティ演習等のコース選択授業を実施。

o 実務家教員担当授業

各サロン・企業の講師のご協力により順調に実施中。

o インターンシップ・外部実習

1 年の外部実習(インターンシップ 2 単位)は後期(2027 年 2 月)に実施予定。2 年は該当なし。

● 議題 2: 学生の状況

o GPA(学業成績)

現在前期成績の集計・算出中(科目別評価×単位数)。修学支援制度の根拠資料として整理を進めている(昨年度実績:105 名分)。

o 平均出席率

今年度の 2 年出席率は昨年度の 2 年と比較して向上している(約 2%向上)。一部出席率の低い学生に対しては、対面指導および修学支援要件に配慮した個別の生活・修学指導を継続している。

● 議題 3: 教職員に関する活動の報告

o YIC 教員研修

8 月 24 日～26 日に実施された YIC 主催教員研修に教員 5 名が参加。

o 地区教職員研修

10 月 3 日～4 日に開催された中国地区理容美容学校教職員研修に教員・事務局を含め 5 名が参加。

● 議題 4: 職業実践に関わる中間自己点検(前期の検証)

(1) 教育課程・指導

前期試験・検定試験を含め概ね計画通り実施。美容師国家試験合格率 100%達成に向け、朝学習等の補講・強化対策を継続的に実施。

（2）連携体制

企業・サロンとの事前打ち合わせ（口頭・メール）の記録方法にばらつきがある。文部科学省の第三者評価（令和 13 年以降、5 年以内の受審義務化）を見据え、後期より打ち合わせ記録を一括管理・議事録化する運用に移行する。

（3）施設設備

2026 年 2 月に山口県生活衛生課による実地調査が実施され、改善指導等の問題なしとの判定を受けた。建物の経年老朽化に対し、一部施設設備の改修調整を進める。

● 議題 5: 学校関係者評価委員との意見交換（特に専門的な意見を必要とする事項）

（1） 2028 年度 新学科（プロフェッショナル／学び直しコース）の新規開設構想について

・ 背景・現状: 近年、カットクリエイティブコースよりトータルビューティコースの選択希望者が急増している（2027 年度入学者出願実績：カット 24 名、トータルビューティ 54 名）。メイク、ネイル、エステ、アイラッシュ等の即戦力スキル向上を望む学生が増加。

・ 新学科構想: 2028 年度（令和 10 年 4 月）より、美容師免許保有者または美容師養成施設卒業（見込み）者を対象とした新学科（1 年制、31 単位想定）の開設を構想中。養成施設の枠外となるため履修自由度が高く、業界トップ講師の招聘し、土日サロンワーク＋平日通学（または午前・午後分割）など、即戦力化および学び直しの受け皿を目指す。

・ 山村様（議長）: 新学科構想は非常に画期的で、学び直しや即戦力化の観点から市場ニーズに合致している。一方、サロン現場で最も教育に苦労するのはカット（特にレイヤーカット）であり、カット技術の習得にも力を入れるとより魅力が高まる。また、講師陣の確保や評価体制の維持が成功の鍵となる。

・ 河本様（保護者）: 早期に資格を得た後の実践力不足を補う場として、また休眠美容師等の復職支援の窓口として大変魅力的である。

・ 河津校長・千村副校長: 既存の専門学校生だけでなく、ダブルスクール卒業生や休眠美容師など幅広く受け入れ、即戦力化を支援する柔軟な学科として準備を進めたい。

（2） 高校と美容専門学校のダブルスクール提携および進路・業界動向について

・ 現状と課題: 山口県内および近隣県（早鞆高、山口中村学園高、柳井学園高等）で高校と美容専門学校の提携（ダブルスクール）が加速している。早期資格取得の選択肢が増える一方、高校での実習時間・密度には限界があり、資格取得後の実技面の定着やミスマッチの懸念について意見交換が行われた。

・ 河本様（保護者）: 中学 3 年生の段階で W スクールを選択するか、普通高校から専門学校へ進むかで迷う保護者・生徒が多い。

・ 山村様・河津校長: W スクールは若い年齢で社会に出るメリットがある反面、技術・精神面の定着が課題となる。専門学校での 2 年間の濃密な教育と人間形成は大きな差別化要素であり、出口（就職・定着）を見据えた指導が重要である。

（3） 高川学園高等学校からのサークル活動・学校間連携提案について

・ 縄田様（高校）: 部活動に入れない生徒（金銭・時間的制約等）向けに、美容やトータルビューティ、クリエイティブ分野の「サークル活動」を校内に立ち上げ予定。BM の専門施設・機材の利用や技術協力など、学校間連携による高大（高専）連携の可能性を提案。

・ 河津校長・千村副校長: 専門機材や環境を備えた本校施設でのサークル活動実施を含め、高校生の美容への興味関心を育む素晴らしい取り組みとして前向きに協力・連携を検討する。

（4） 美容業界のトレンド・男性美容（トータルビューティ）需要の拡大について

・ 山村様（議長）: コロナ以降、アイブロウや目元ケアの需要が急増。男性客の比率が大幅に増加しており（アイサロンで客数の約 4 割が男性）、男性の身だしなみケアやトータルビューティへの関心は一歩進んだトレンドとなっている。今後もこの流れは継続・拡大する見込み。

4. 連絡事項

・ YIC フェス 2026 の開催: 開校 20 周年を記念し、2026 年 11 月 23 日（祝）に KDDI 維新ホールにて「YIC フェス 2026」を開催。専門学校部門全校、幼稚園、保育園（6 園）合同で成果発表・ヘアメイクライブ等を実施予定。午前中には未就学児向けヘアアレンジ体験企画も実施。

・ 法人新設校（YIC 岩国保健看護大学校）: 岩国 YMCA 保健看護専門学校が 2027 年 4 月 1 日より「YIC 岩国保健看護大学校」と名称変更し、YIC グループへ加入・統合されることを報告（山口県認可済み）。

・第 2 回委員会 日程予定: 2027 年 3 月 24 日（水） 14:00～開催

5. 閉会

本日いただいた貴重な意見・アドバイスを今後の学校運営および次年度計画に活かしていくことを確認し、全ての議事を終了・閉会した。